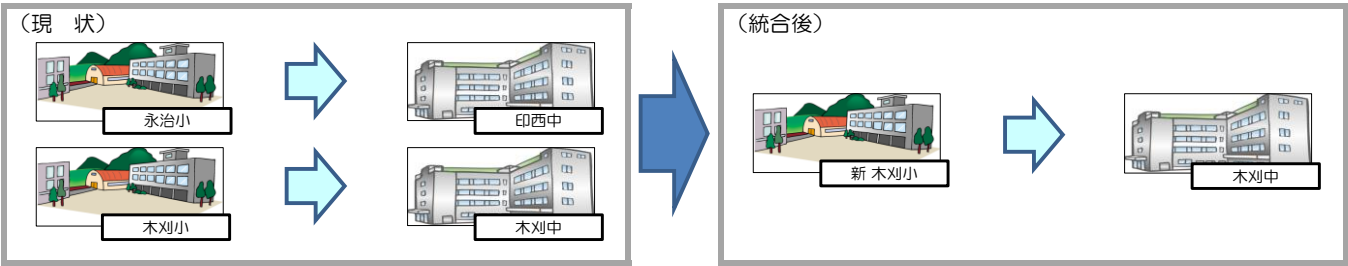


学校適正配置のシミュレーション（案）【永治小+木刈小】



項 目	永治小学校	木刈小学校	新 木刈小学校
① 所 在	印西市浦部557	印西市木刈2-6	印西市木刈2-6
② 開 校 年	明治6年	昭和59年	昭和59年
③ 教室保有数等	総数 6教室（H27：特支 0教室）	総数 26教室（H27：特支 2教室）	総数 26教室（H27：特支 2教室）
④ 児童数の推移	H27：31名 → H33：34名 3名の増	H27：483名 → H33：444名 39名の減	H27：514名 → H33：478名 36名の減
⑤ 学級数の推移	H27：5学級 → H33：5学級（複式1） 増減なし	H27：16学級 → H33：15学級 1学級の減	H27：16学級 → H33：15学級 1学級の減
⑥ 通学区域	東西：約3.9km・南北：約2.8km 遠距離地域：直線 約1.8km・道路 約2.5km	東西：約2.4km・南北：約1.4km 遠距離地域：直線 約1.7km・道路 約1.9km	東西：約3.9km・南北：約3.4km 遠距離地域：直線 約2.1km・道路 約2.7km
⑦ 教育目標	心豊かで、自ら学力や体力を高める 子どもの育成	心豊かに、自ら学ぶ、 たくましく生きる子どもの育成	心豊かに、自ら学ぶ、 たくましく生きる子どもの育成
⑧ 学区外就学の 状況（出）	H27：対象者20人/学区の児童数51人 割合：39.2% 主な就学先 木刈小学校		
⑨ 学校等の特徴	・本校は東に手賀沼を展望する高台に位置し、周囲は住宅、林、畑に囲まれている。 ・校庭には、大桜と呼ばれている桜の大樹がシンボルツリーとしてある。 ・人間関係作りを通して心を育て、リーダー的資質を養っている。また、小規模校のよさを生かし、一人ひとりの特性や資質に応じたきめ細やかな教育活動を推進している。 ・本校の特色でもある地域に根ざした教育の一環として、神楽推進委員会を立ち上げ、6年生は地域の伝統芸能「浦部十二座神楽」を学び、継続的な活動に取り組んでいる。 ・3世代、4世代が同居し、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちを育てる環境にある。	・戸建中心の住宅と浦部川や浦幡公園などの豊かな自然環境に囲まれた落ち着いた地域環境にある学校である。 ・木刈っこの合言葉「みそあじ」を意識し、特に掃除と挨拶ができることを重点として、きれいな校舎の中に明るい挨拶が響いている。 ・なわ跳び記録会やロードレース大会、遊・友スポーツランキングや集会活動等を通して、運動や遊びに積極的に親しむ姿も見られる。 ・PTA活動も活発で作文・標語・広報紙の部でも多くの賞をいただいている。 ・読み聞かせ、図書ボランティア、防犯、高齢者交流など、様々な活動を地域と一体となって進めている。	

<児童数・学級数の推移>

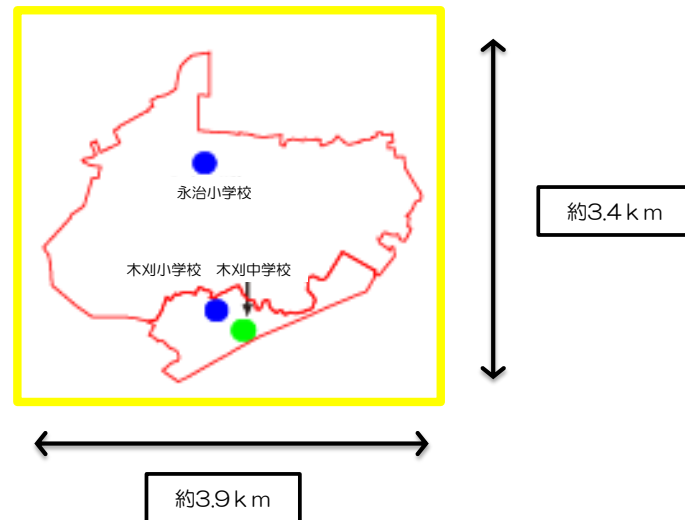
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
永治小学校	31	5	30	5	25	4	25	4	25	4	32	5	34	5
木刈小学校	483	16	516	17	517	17	540	18	528	17	488	16	444	15
新 木刈小学校	514	16	546	17	542	17	565	18	553	18	520	17	478	15

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

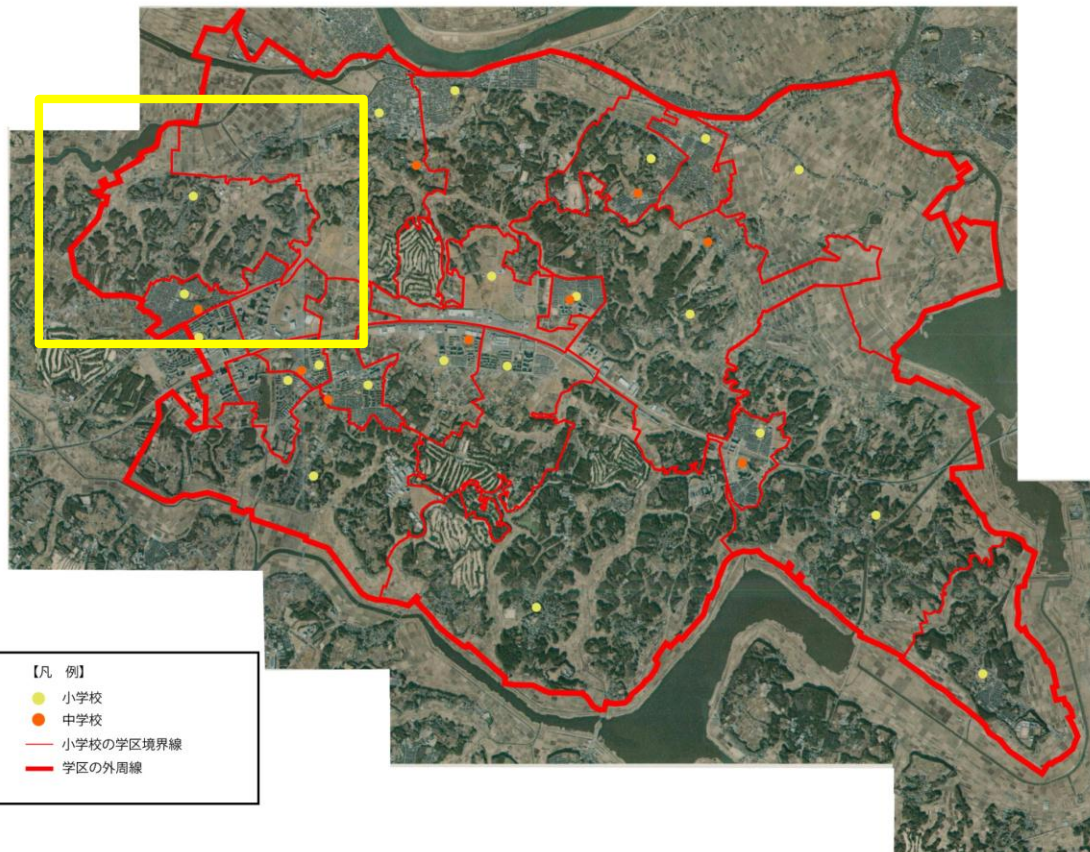
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学（道路）	特記事項
永治小+木刈小⇒新 木刈小	適正	○	○	木刈小は永治小学校区からの主な学区外就学先となっている。 永治小の中学校区が印西中から木刈中に変更となる。

※ 施設受入面：○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
※ 遠距離通学（道路）：○…通学距離が4.0km以下 △通学距離が4.1km以上

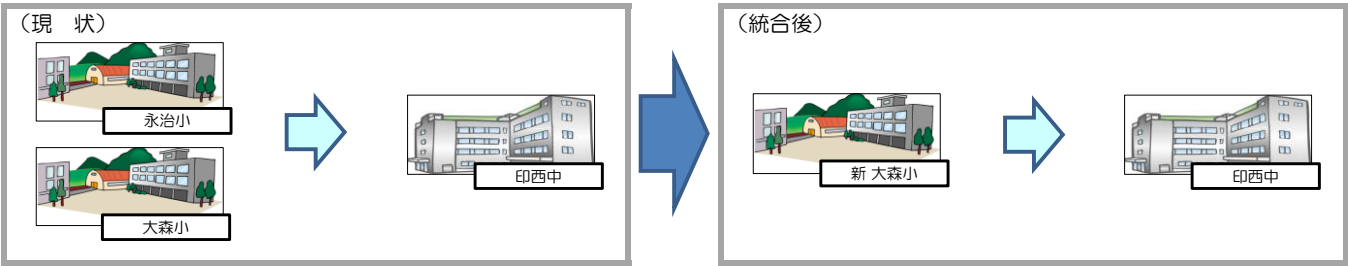
<通学区図>



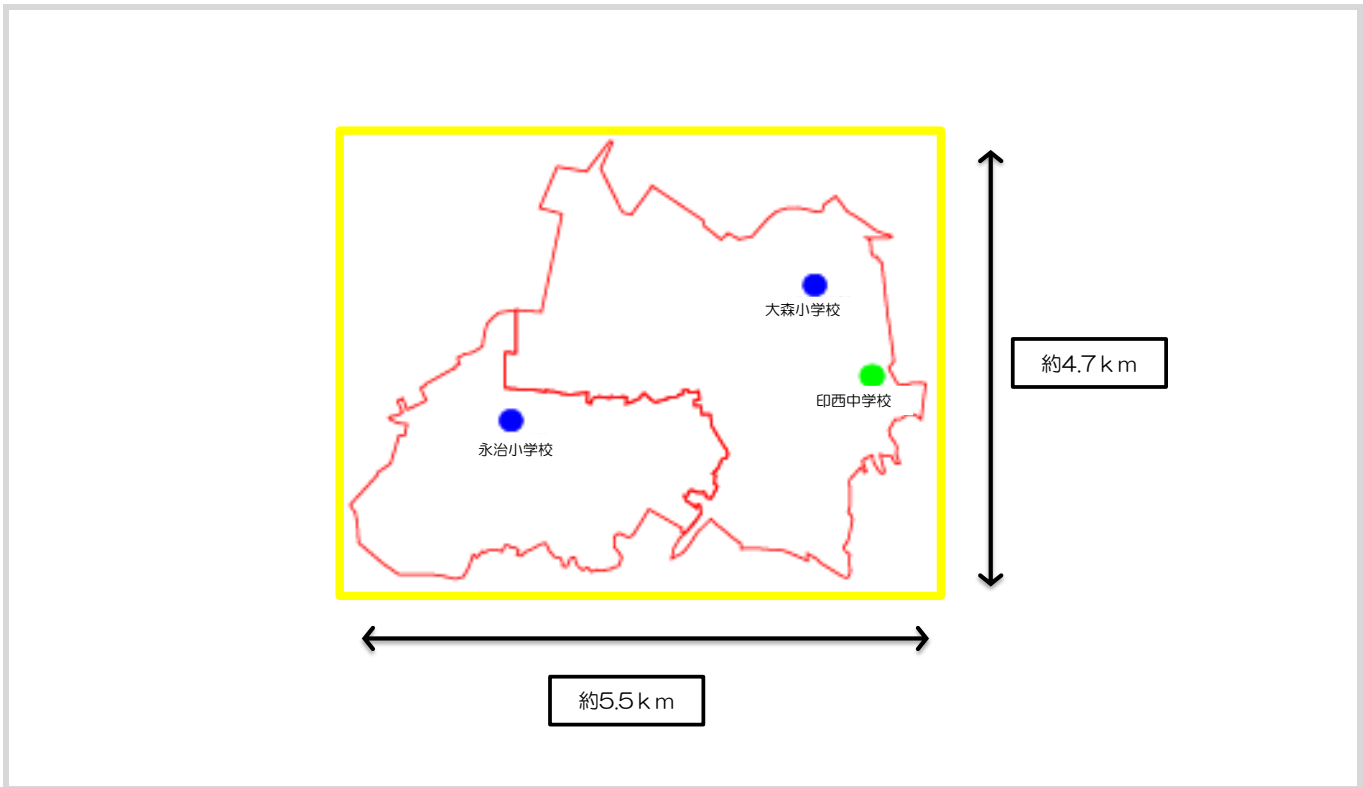
<小中学校分布図（航空写真）>



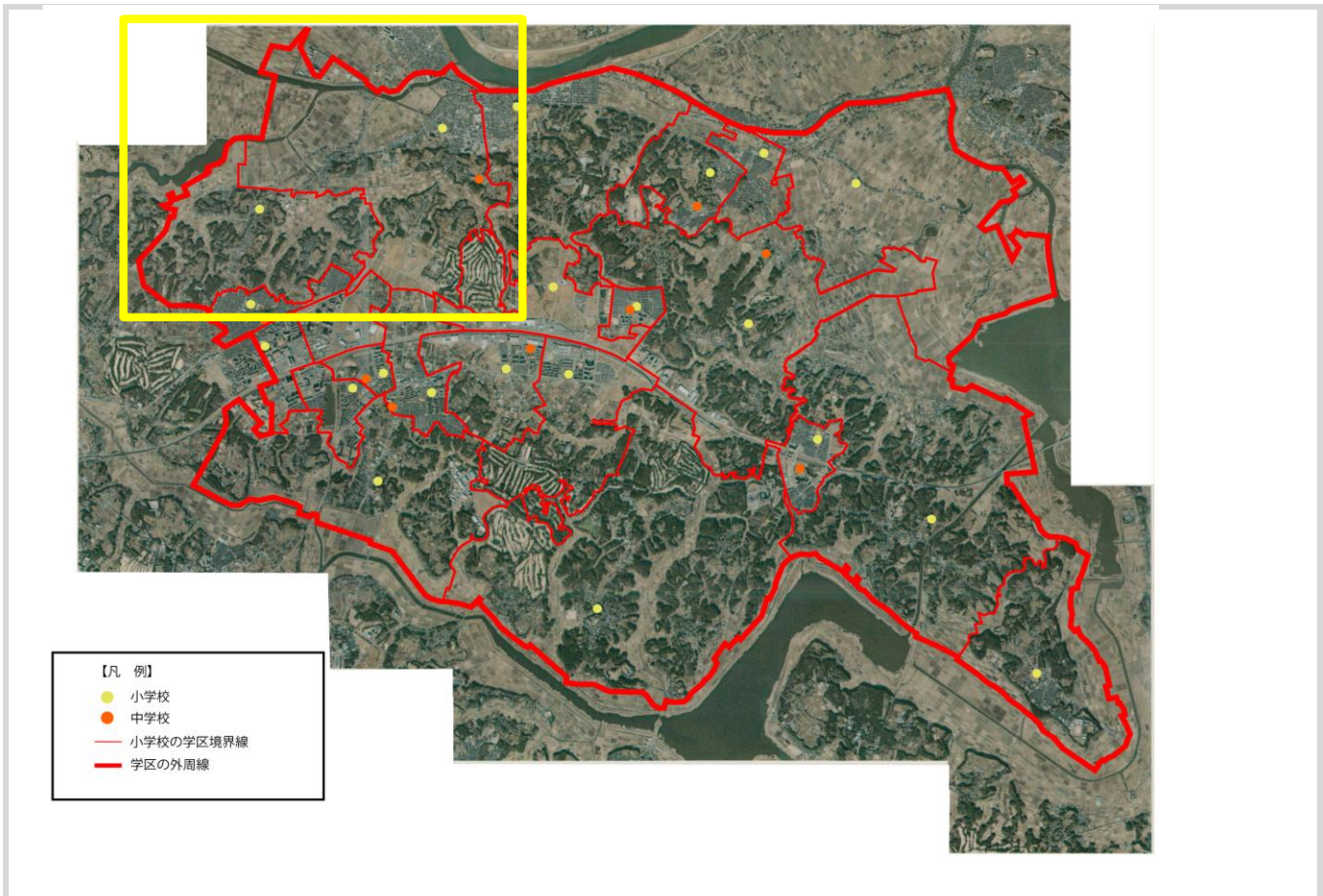
学校適正配置のシミュレーション（案）【永治小+大森小】



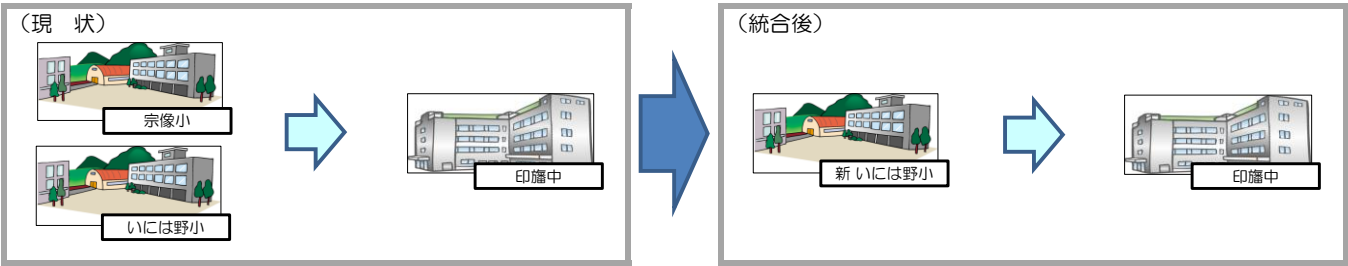
<通学区域図>



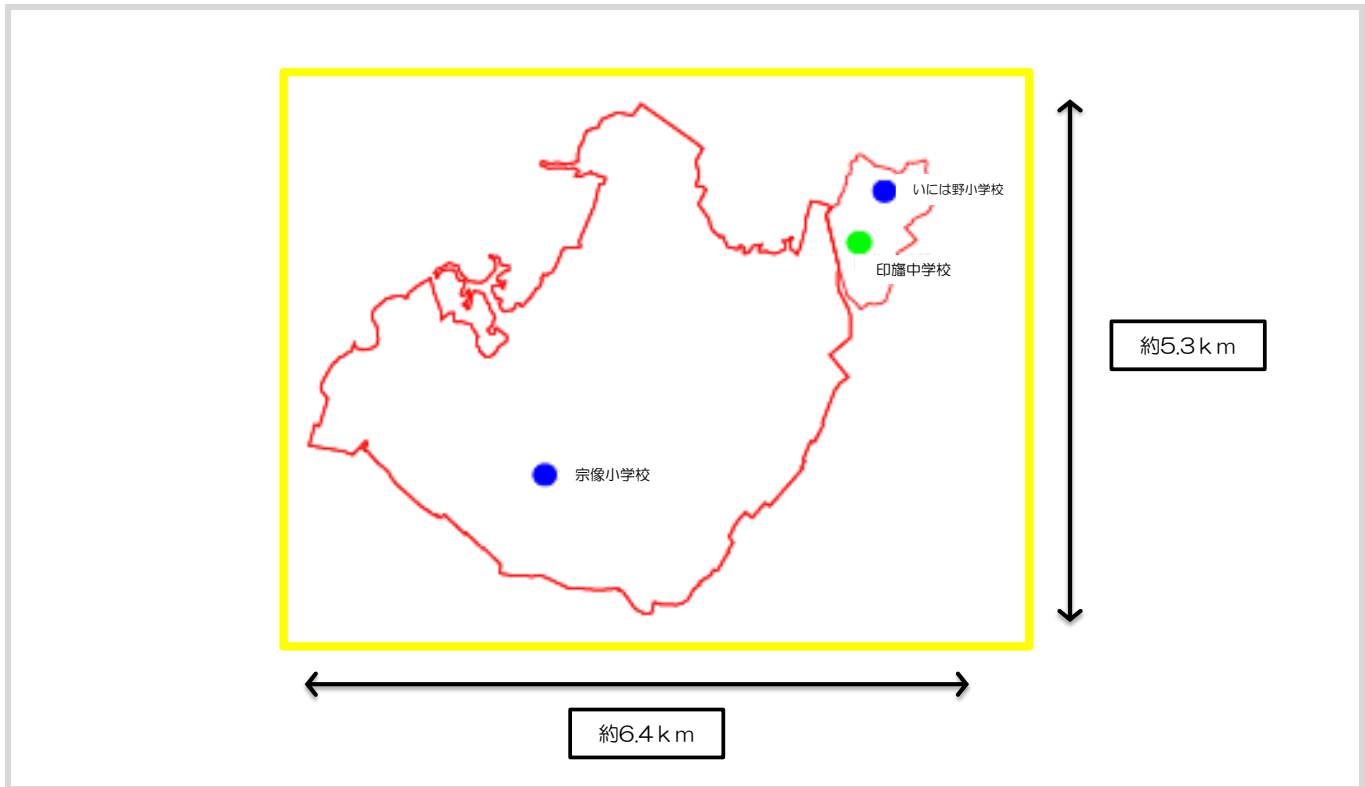
<小中学校分布図（航空写真）>



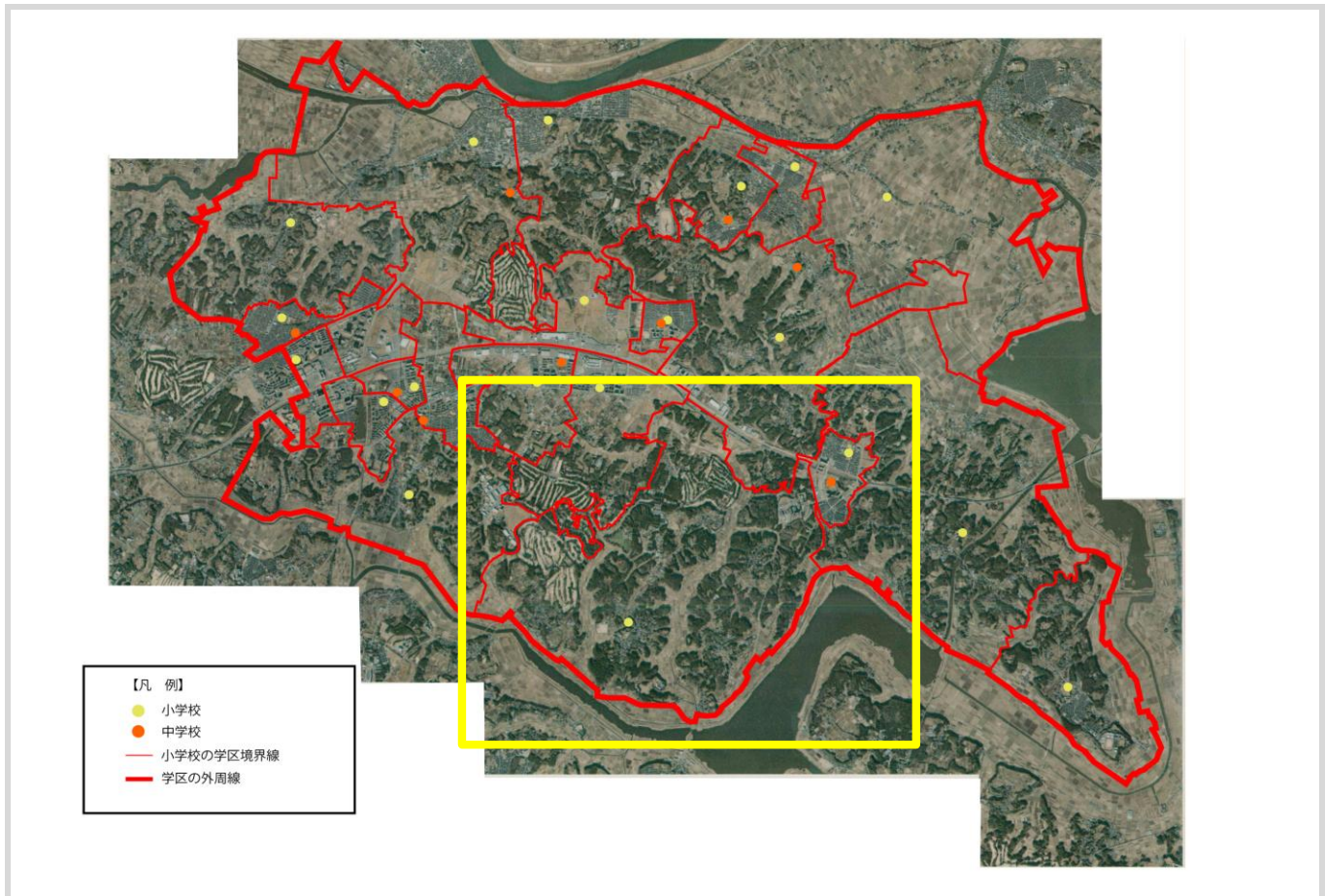
学校適正配置のシミュレーション（案）【宗像小+いには野小】



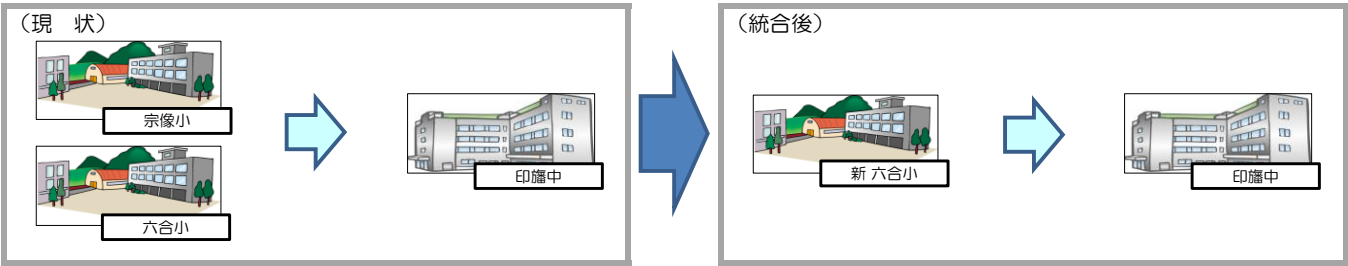
<通学区図>



<小中学校分布図（航空写真）>



学校適正配置のシミュレーション（案）【宗像小+六合小】



項 目	宗像小学校	六合小学校	新 六合小学校
① 所 在	印西市岩戸1680	印西市瀬戸1580	印西市瀬戸1580
② 開 校 年	明治6年	明治6年	明治6年
③ 教室保有数等	総数 8教室（H27：特支 1教室）	総数 14教室（H27：特支 2教室）	総数 14教室（H27：特支 2教室）
④ 児童数の推移	H27：36名 → H33：44名 8名の増	H27：88名 → H33：99名 11名の増	H27：124名 → H33：143名 19名の増
⑤ 学級数の推移	H27：5学級 → H33：6学級 1学級の増	H27：6学級 → H33：6学級 増減なし	H27：6学級 → H33：6学級 増減なし
⑥ 通学区域	東西：約5.6km・南北：約5.3km 遠距離地域：直線 約3.8km・道路 約4.0km	東西：約4.5km・南北：約5.8km 遠距離地域：直線 約3.2km・道路 約4.6km	東西：約9.3km・南北：約6.8km 遠距離地域：直線 約6.9km・道路 約8.7km
⑦ 教育目標	たくましく 心豊かな 児童の育成	やさしく かしく たくましい 子どもの育成	やさしく かしく たくましい 子どもの育成
⑧ 学区外就学の 状況（出）	H27：対象者6人/学区の児童数44人 割合：13.6% 主な就学先 いには野小学校	H27：対象者19人/学区の児童数108人 割合：17.6% 主な就学先 いには野小学校	
⑨ 学校等の特徴	・本校は市の南部に位置し、西は八千代市、南は佐倉市に隣接している。 ・学区は東西約6km、南北約6kmの範囲にあり、沼に面した南方と八千代市に面した西方は湿地帯で水田が開けている。また、中央より北方にかけては丘陵をなしており、山林や畑が散在し、一帯の地質は関東ローム層である。 ・農業地域であり、子ども・両親・祖父母による三世帯同居家庭が多い。・両親共働きの保護者が多く、就学前の子どもは、幼稚園や保育園に通うが、祖父母に面倒を見てもらっている。 ・地域の方々は自らも本校卒業という保護者が多く、愛校心が強く、学校教育に対する理解と協力を惜しまない。	・本校は印西市の南東部に位置し、学区は瀬戸・山田・吉高・萩原・松虫の5地区からなる。 ・学区には農家が多く、稲作、ビニールハウスによる園芸作物・野菜栽培を行っている。 ・児童の家庭は、ほとんどが三世帯、四世代同居で、学校教育に対しての理解が深く協力要請には、快く応じてくれる。 ・萩原・松虫・吉高地区は、通学距離が4kmを超えるため、市スクールバスを利用して通学している。	

<児童数・学級数の推移>

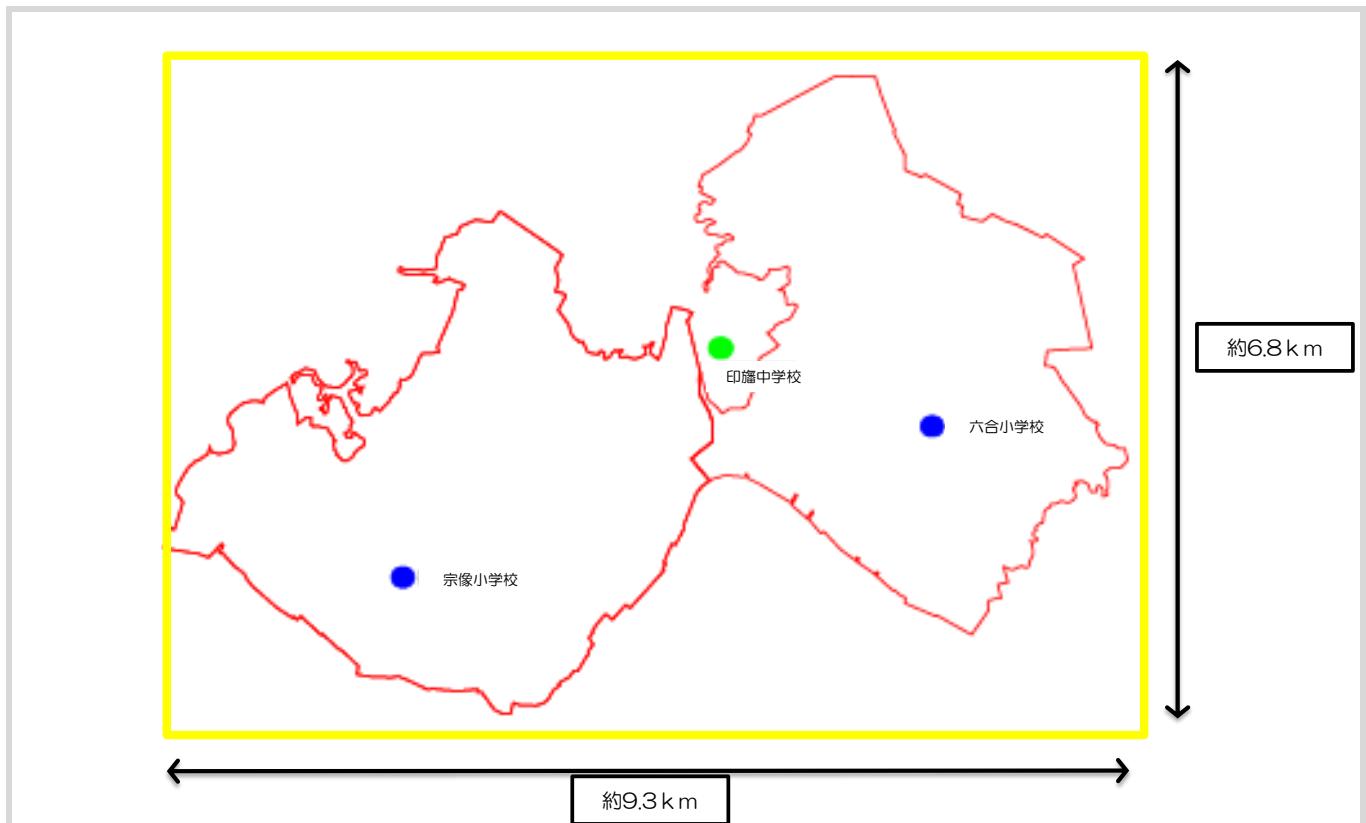
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
宗像小学校	36	5	27	4	28	4	34	5	40	5	43	5	44	6
六合小学校	88	6	87	6	95	6	97	6	96	6	98	6	99	6
新 六合小学校	124	6	114	6	123	6	131	6	136	6	141	6	143	6

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

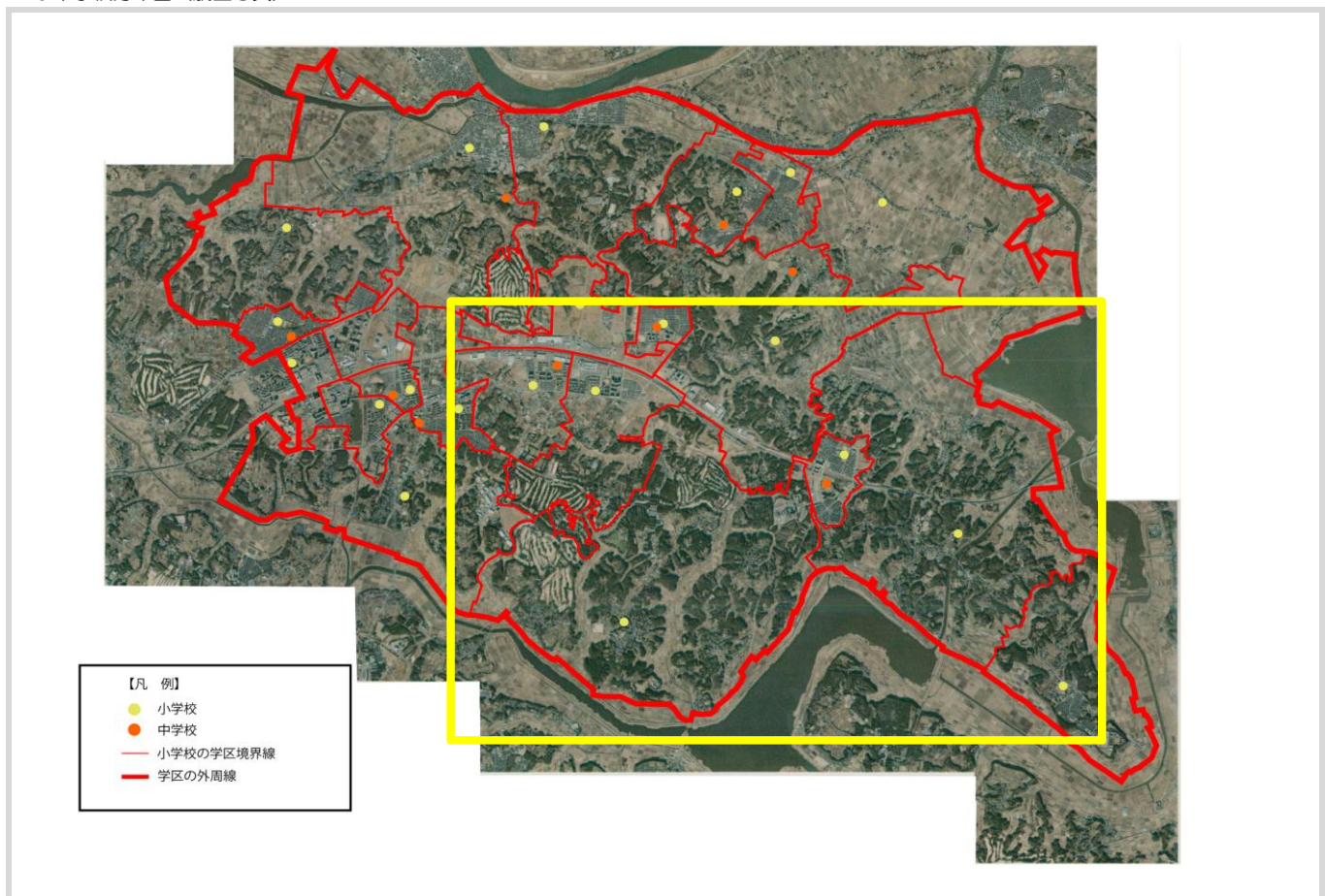
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学 （道路）	特記事項
宗像小+六合小⇒新 六合小	小規模	○	△	・学校規模が適正配置後も小規模校となる。 ・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 ・一部借地がある。

※ 施設受入面：○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
※ 遠距離通学（道路）：○…通学距離が4.0km以下 △通学距離が4.1km以上

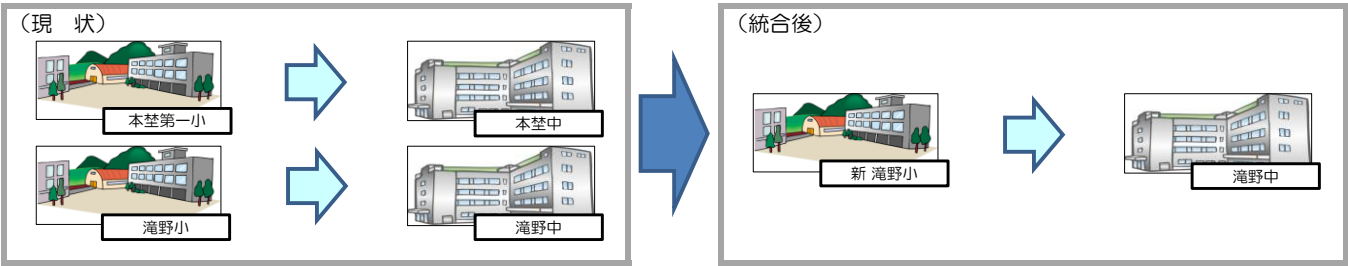
<通学区域図>



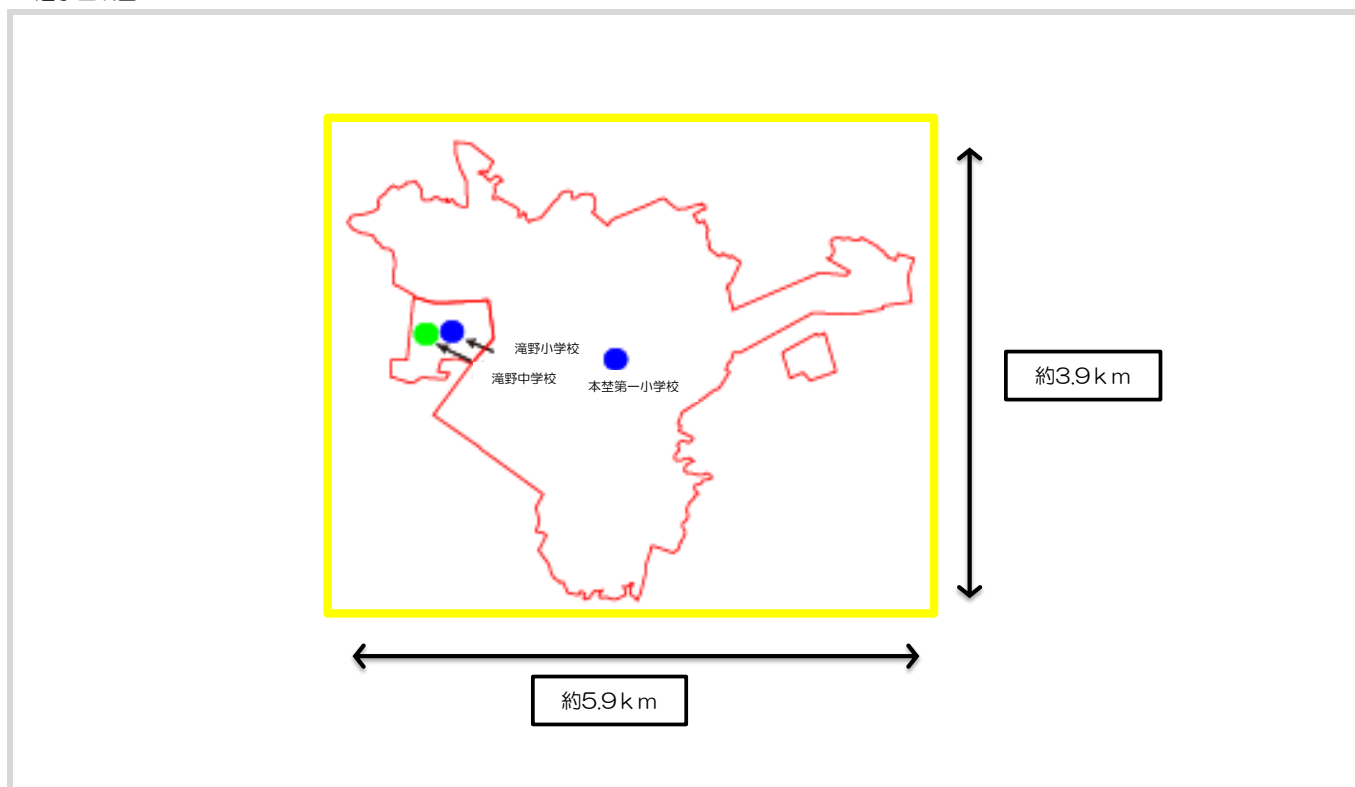
<小中学校分布図（航空写真）>



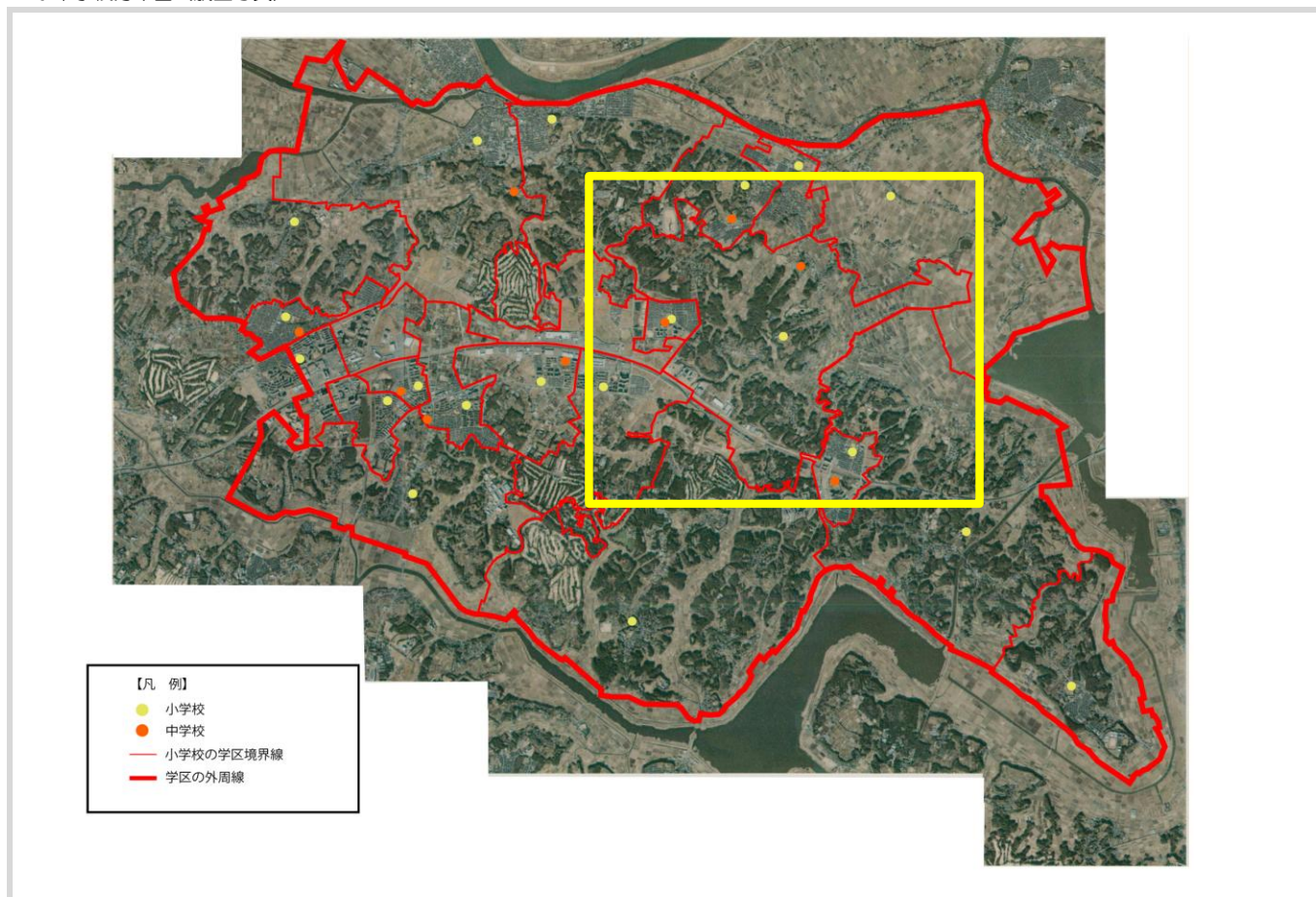
学校適正配置のシミュレーション（案）【本埜第一小＋滝野小】



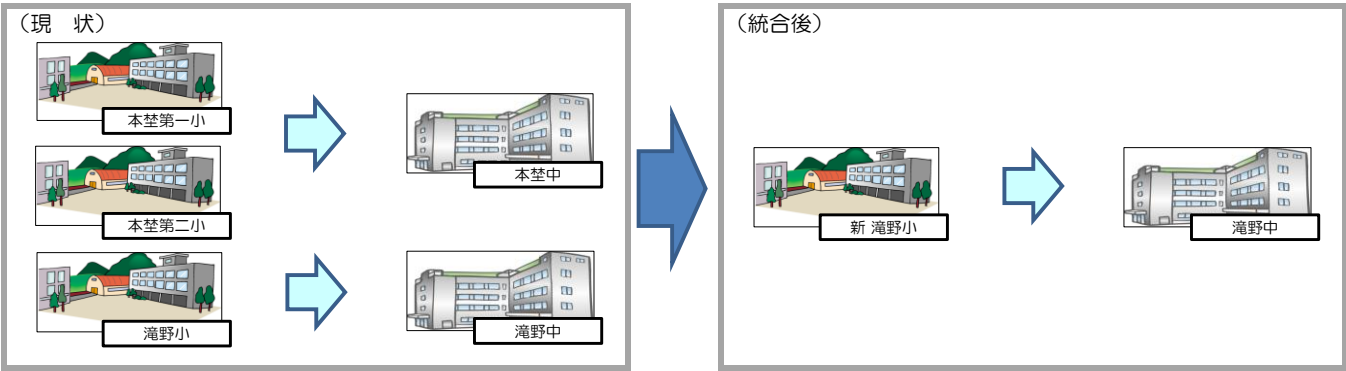
<通学区域図>



<小中学校分布図（航空写真）>



学校適正配置のシミュレーション（案）【本埜第一小＋滝野小＋本埜第二小】



項 目	本埜第一小学校	滝野小学校	本埜第二小学校	新 滝野小学校
① 所 在	印西市中根1281-2	印西市滝野5-1	印西市萱神1745	印西市滝野5-1
② 開 校 年	明治21年	平成9年	明治6年	平成9年
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27：特支 1教室)	総数 21教室 (H27：特支 2教室)	総数 7教室 (H27：特支 1教室)	総数 21教室 (H27：特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27：45名 → H33：78名 33名の増	H27：405名 → H33：222名 183名の減	H27：67名 → H33：36名 31名の減	H27：517名 → H33：336名 181名の減
⑤ 学級数の推移	H27：5学級 → H33：6学級 1学級の増	H27：14学級 → H33：8学級 6学級の減	H27：6学級 → H33：5学級 1学級の減	H27：16学級 → H33：12学級 4学級の減
⑥ 通学区域	東西：約5.9km・南北：約3.9km 通距離地域：直線 約2.4km・道路 約3.2km	東西：約1.1km・南北：約0.9km 通距離地域：直線 約0.6km・道路 約0.8km	東西：約5.0km・南北：約4.7km 通距離地域：直線 約2.8km・道路 約3.9km	東西：約7.7km・南北：約6.3km 通距離地域：直線 約6.1km・道路 約7.1km
⑦ 教育目標	自ら考え行動できる 心豊かにたくましく子どもの育成	未来をみつめ 自ら学び、 心豊かにたくましく生きる児童の育成	豊かな心を持ちたくましく生きる 児童の育成	未来をみつめ 自ら学び、 心豊かにたくましく生きる児童の育成
⑧ 学区外就学の 状況（出）	H27：対象者18人/学区の児童数62人 割合：29.0% 主な就学先 滝野小学校		H27：対象者5人/学区の児童数71人 割合：7.0% 主な就学先 小林立小学校	
⑨ 学校等の特徴	・学区は、印西市の北東部に位置し、丘陵地帯と谷津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。 ・学区が広いため児童は徒歩とスクールバスで登下校している。 ・専業農家は少なく兼業農家がほとんどである。 ・地域、保護者の教育への関心は高く、歴史ある学校を大事にしようとする気風が代々引き継がれている。 ・地区ごとの結びつきが強く、PTA活動も円滑に進められている。 ・児童は明るく、素直でありのびのびと学校生活を送っている。	・本校は市の中央部に位置し、平成9年に千葉ニュータウン23住区に新設された。 ・学区は滝・滝腹寺地区と新しく開かれた滝野地区からなる。 ・滝野中学校と建物が一体化しており、教室はオープンスペース、一部特別教室が共有施設になっている。 ・生活の利便性と緑豊かな環境を求めて、関東近県から転居してきた家庭が多く、海外勤務からの帰国家庭も少なくない。 ・保護者の多くは会社員で、核家族化が進んでいる地域である。	・本校は市の北東部に位置し、周辺には印旛沼の水を利用した田園風景が広がっている。 ・冬になると近くの田んぼに1000羽を超える白鳥が飛来する。 ・学校では、この豊かな自然環境を生かした教育活動を地域の方々の協力を得て進めている。こうした活動が野生生物の保護活動として認められ、平成27年度に日本鳥類保護連盟から表彰を受けた。 ・体力・健康づくりにも励んでおり、平成24年度・25年度の2年連続で、千葉県教育委員会より「元氣アップ・プラン大作戦コンクール」の優秀賞を、また、平成26年度には「学校健康教育表彰」を受けた。	

<児童数・学級数の推移>

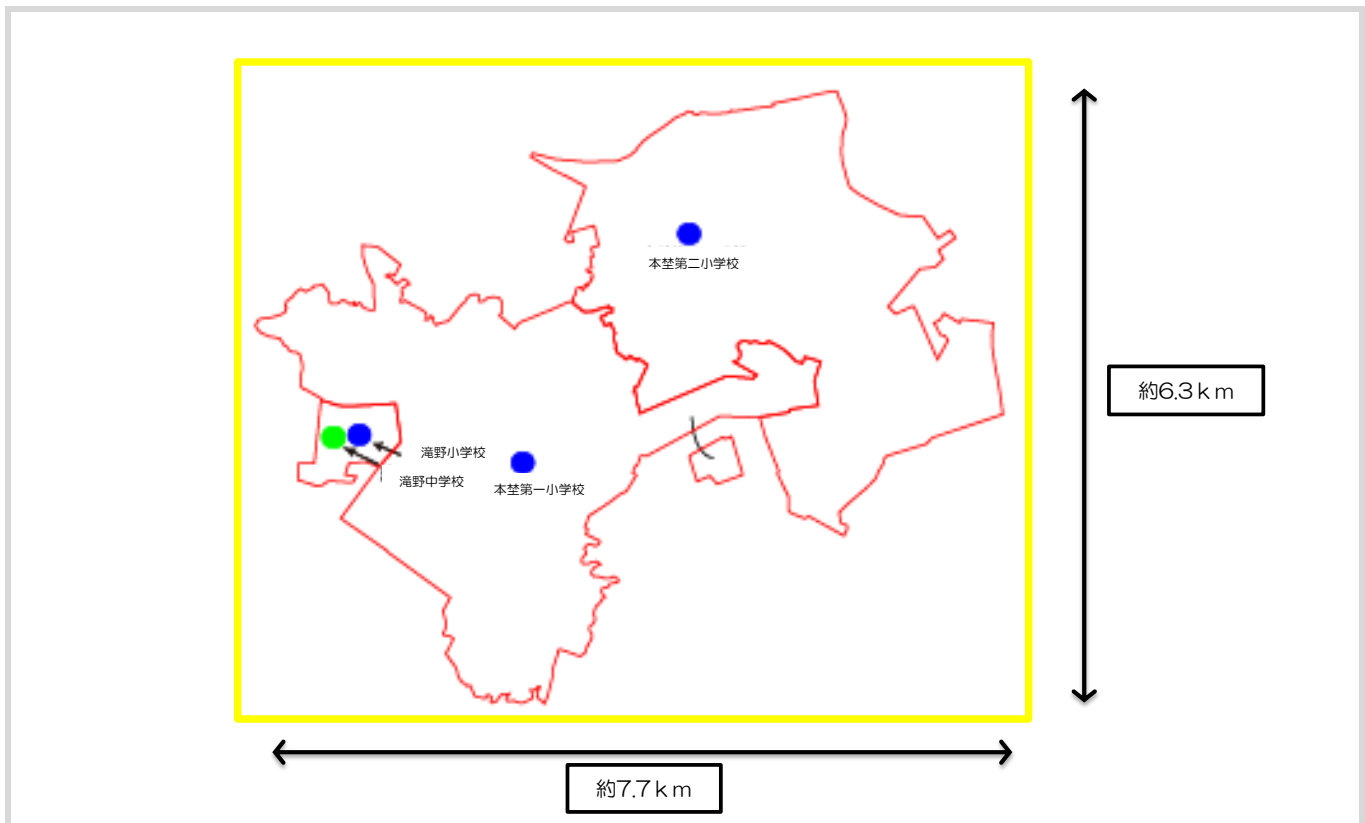
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本埜第一小学校	45	5	45	5	55	5	67	6	73	6	79	6	78	6
滝野小学校	405	14	393	13	347	12	314	11	294	11	253	10	222	8
本埜第二小学校	67	6	58	6	52	6	44	6	44	5	39	5	36	5
新 滝野小学校	517	16	496	16	454	15	425	14	411	14	371	13	336	12

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

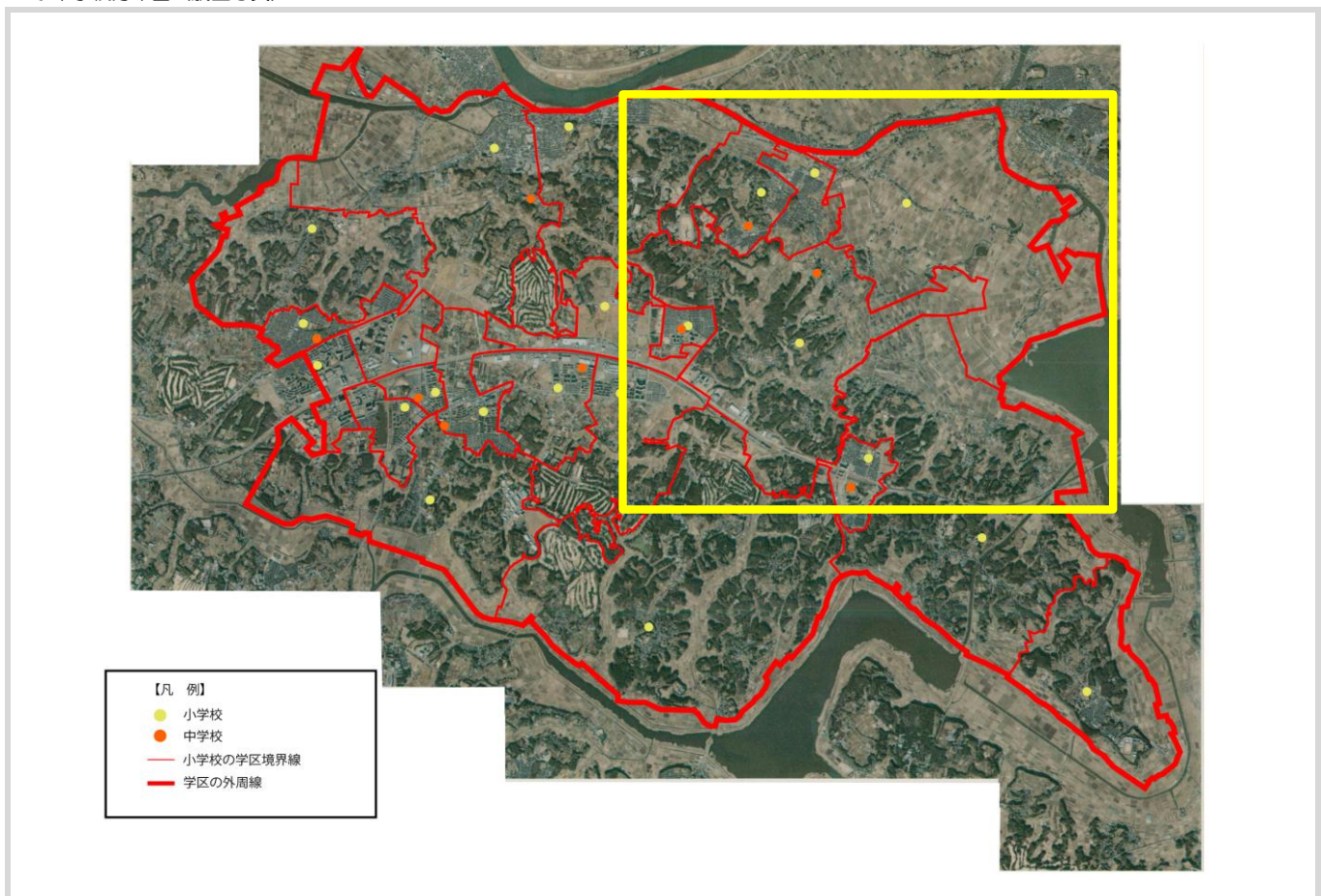
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	通距離通学（道路）	特記事項
本埜第一小＋滝野小＋本埜第二小⇒新 滝野小	適正	○	△	・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 ・本埜第一小及び本埜第二小の中学校区が本埜中から滝野中に変更となる。

※ 施設受入面：○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数＋H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数＋H27特別支援教室数
※ 通距離通学（道路）：○…通学距離が4.0km以下 △通学距離が4.1km以上

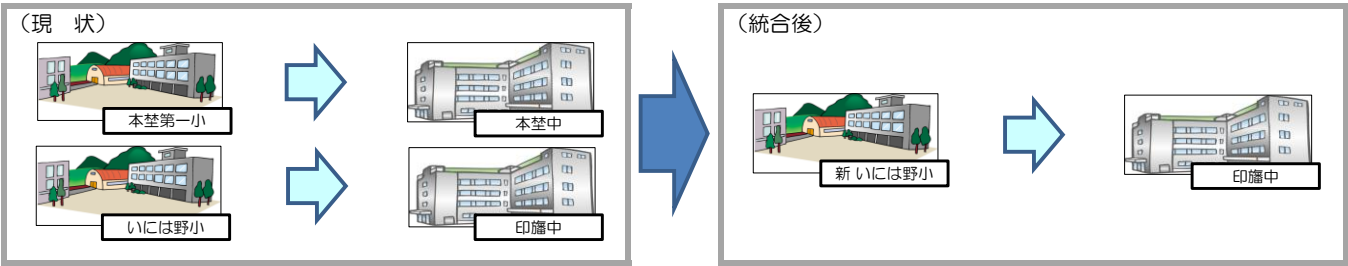
<通学区域図>



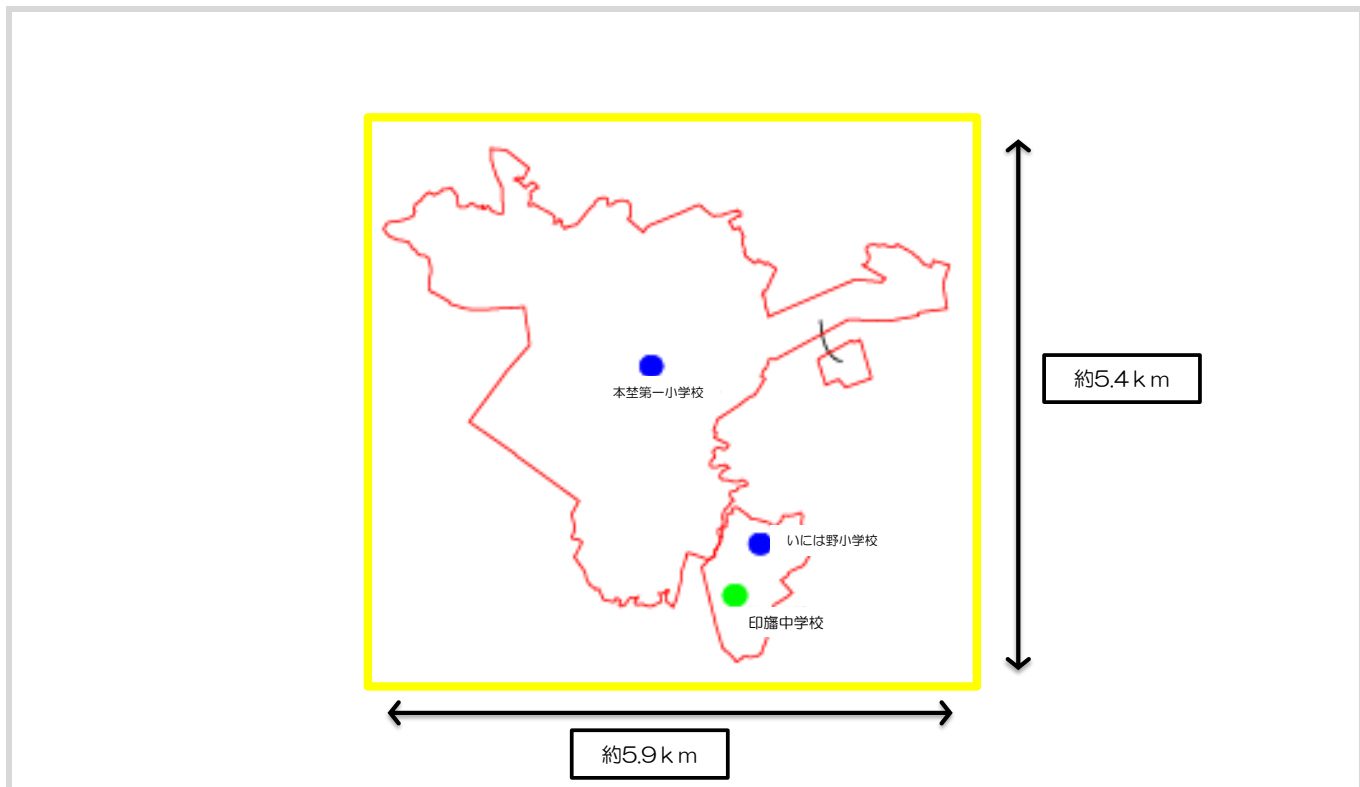
<小中学校分布図（航空写真）>



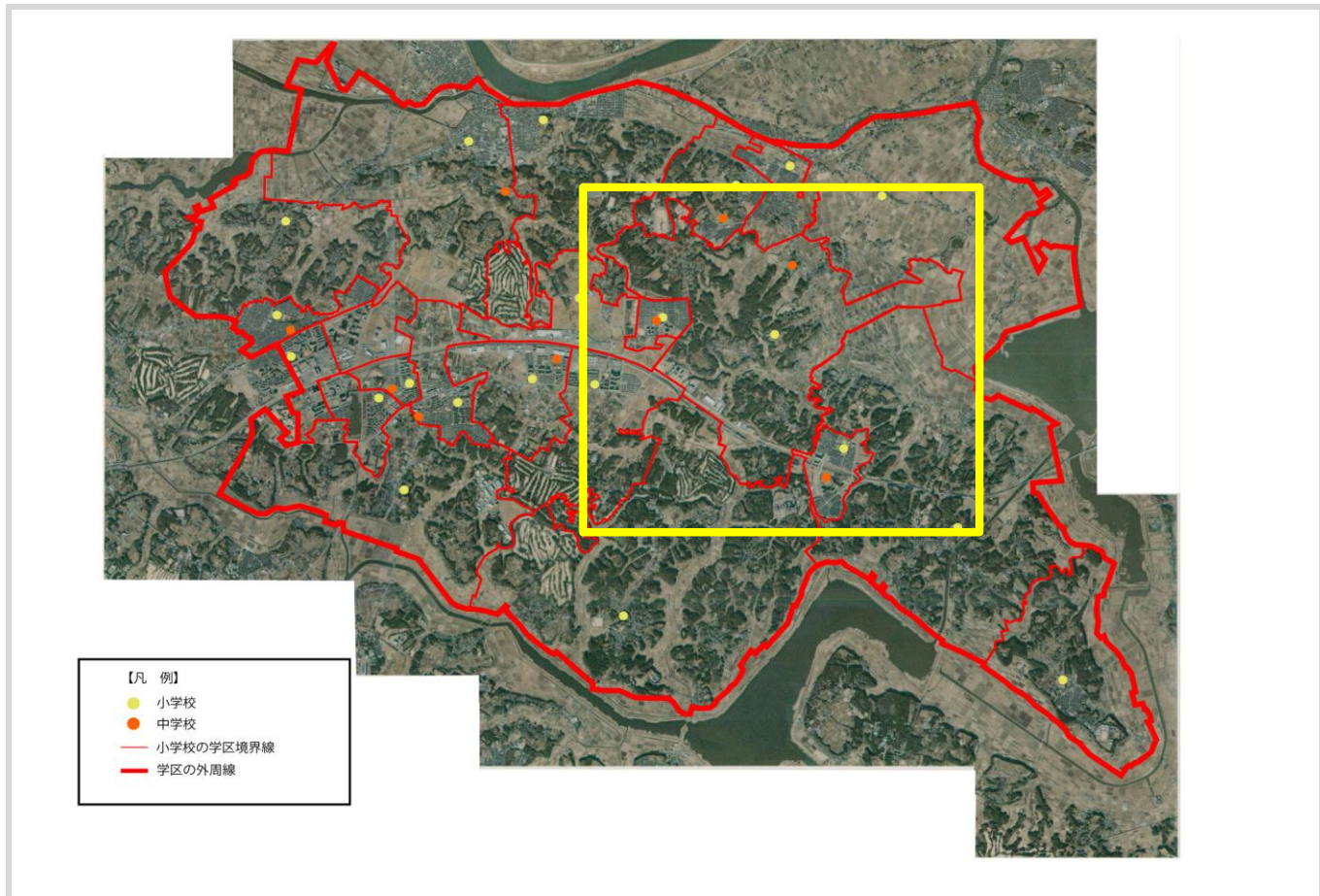
学校適正配置のシミュレーション（案）【本埜第一小+いには野小】



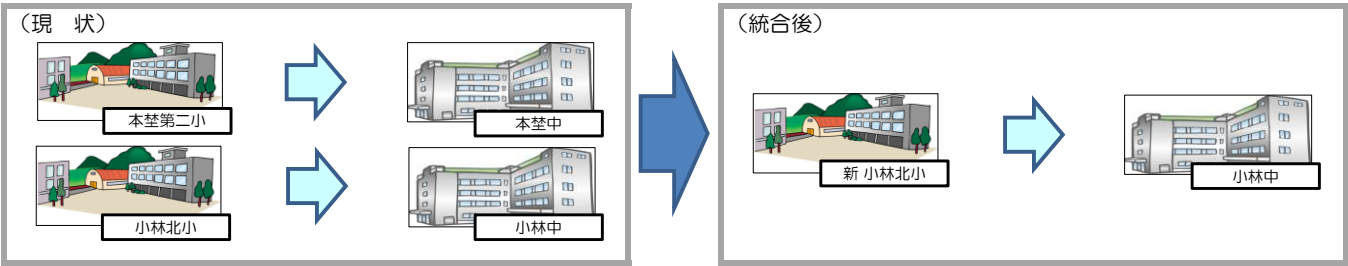
<通学区域図>



<小中学校分布図（航空写真）>



学校適正配置のシミュレーション（案）【本埜第二小+小林北小】



項 目	本埜第二小学校	小林北小学校	新 小林北小学校
① 所 在	印西市笠神1745	印西市小林北5-1-5	印西市小林北5-1-5
② 開 校 年	明治6年	平成3年	平成3年
③ 教室保有数等	総数 7 教室（H27：特支 1 教室）	総数 15 教室（H27：特支 2 教室）	総数 15 教室（H27：特支 2 教室）
④ 児童数の推移	H27：67名 → H33：36名 31名の減	H27：172名 → H33：138名 34名の減	H27：239名 → H33：174名 65名の減
⑤ 学級数の推移	H27：6 学級 → H33：5 学級 1 学級の減	H27：6 学級 → H33：6 学級 増減なし	H27：10 学級 → H33：6 学級 4 学級の減
⑥ 通学区域	東西：約5.0km・南北：約4.7km 遠距離地域：直線 約2.8km・道路 約3.9km	東西：約1.6km・南北：約2.0km 遠距離地域：直線 約1.1km・道路 約1.6km	東西：約5.6km・南北：約4.7km 遠距離地域：直線 約5.0km・道路 約5.8km
⑦ 教育目標	豊かな心を持ちたくましく生きる 児童の育成	心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成	心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成
⑧ 学区外就学の 状況（出）	H27：対象者5人/学区の児童数71人 割合：7.0% 主な就学先 小林北小学校		
⑨ 学校等の特徴	・本校は市の北東部に位置し、周辺には印旛沼の水を利用した田園風景が広がっている。 ・冬になると近くの田んぼに1000羽を超える白鳥が飛来する。 ・学校では、この豊かな自然環境を生かした教育活動を地域の方々の協力を得て進めている。こうした活動が野生生物の保護活動として認められ、平成27年度に日本鳥類保護連盟から表彰を受けた。 ・体力・健康づくりにも励んでおり、平成24年度・25年度の2年連続で、千葉県教育委員会より「元気アップ・プラン大作戦コンクール」の優秀賞を、また、平成26年度には「学校健康教育表彰」を受けた。	・本校はJR小林駅周辺の新興住宅地の開発に伴い、小林小学校から分離独立して開校した。 ・児童数は一時期増加したが、その後は減少している。 ・保護者は、地元の小林地区で生まれ育った人と、各地から転居してきた人とが、地域や学校の活動を通して、協力する体制ができている。学校に対しても協力的であり、また、学校への期待も大きい。 ・地域の方々による子ども達の安全・安心を守る活動が行われ、教育環境の良い地域づくりが進められている。	

＜児童数・学級数の推移＞

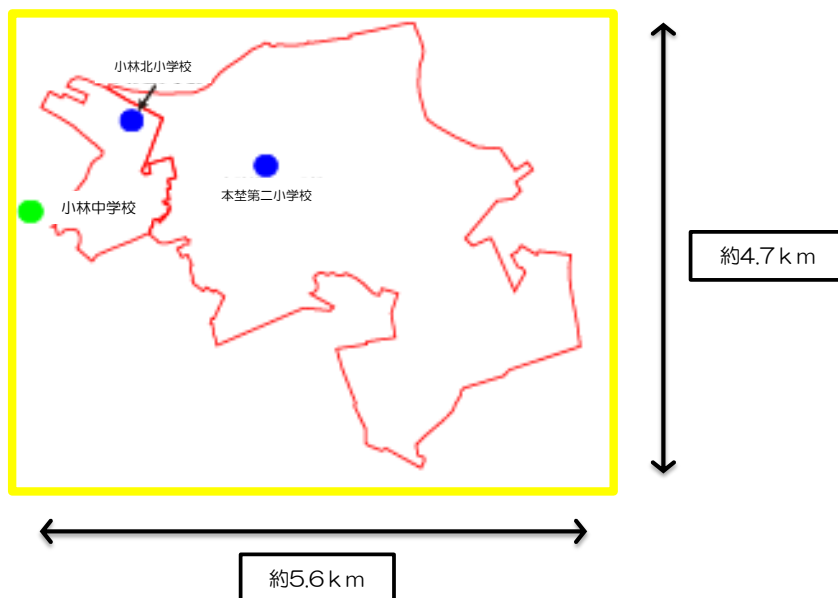
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本埜第二小学校	67	6	58	6	52	6	44	6	44	5	39	5	36	5
小林北小学校	172	6	170	6	171	6	168	6	159	6	146	6	138	6
新 小林北小学校	239	10	228	9	223	8	212	8	203	7	185	6	174	6

＜学校適正配置シミュレーション（案）の考察＞

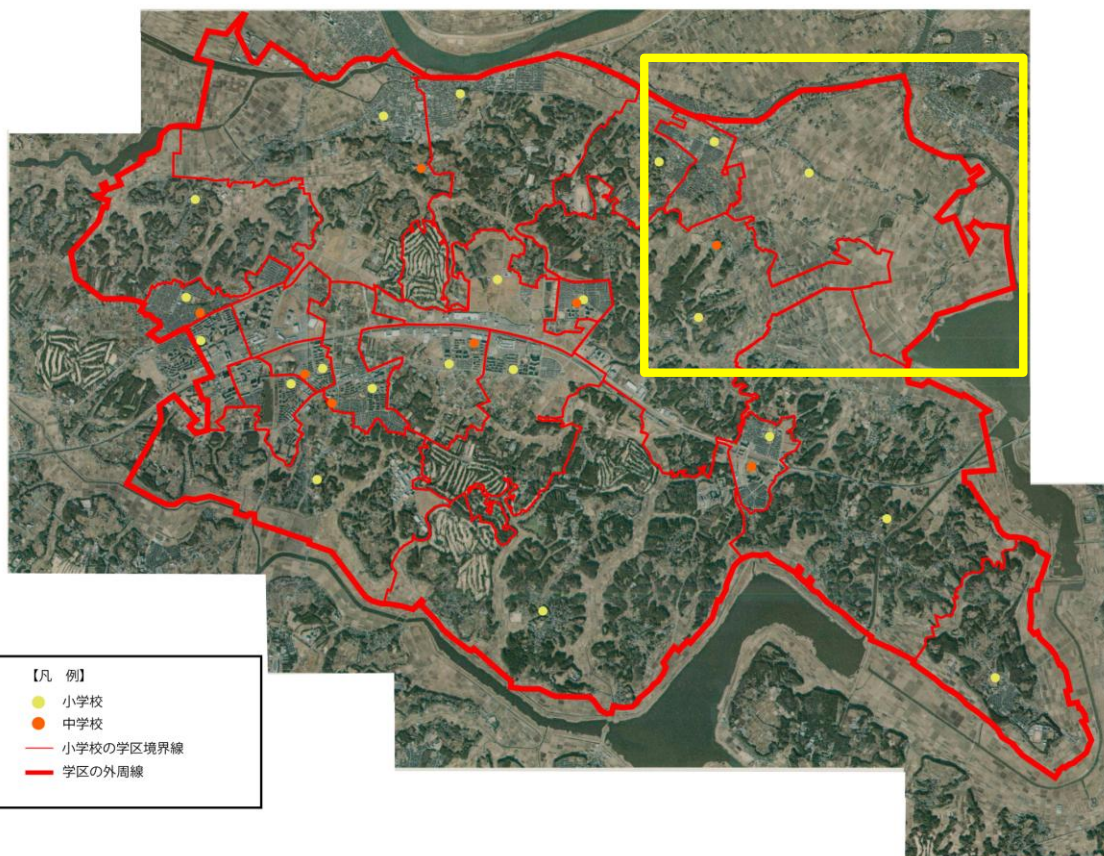
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学 （道路）	特記事項
本埜第二小+小林北小⇒新 小林北小	小規模	○	△	・学校規模が適正配置後も小規模校となる。 ・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 ・本埜第二小の中学校区が本埜中から小林中に変更となる。

※ 施設受入面：○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
※ 遠距離通学（道路）：○…通学距離が4.0km以下 △通学距離が4.1km以上

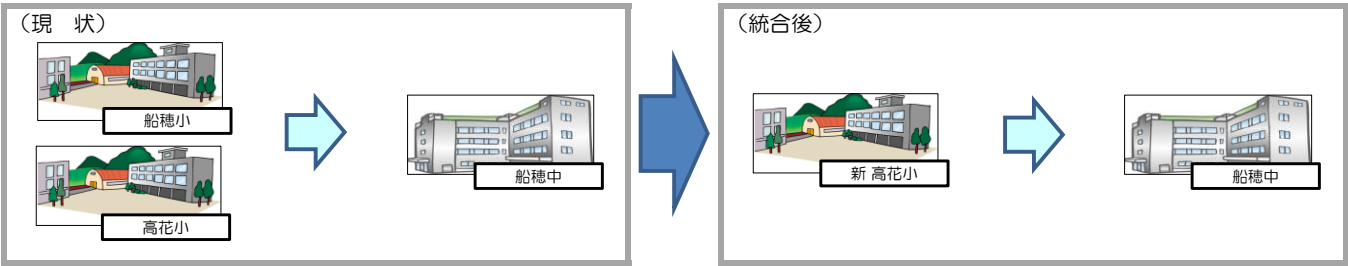
<通学区域図>



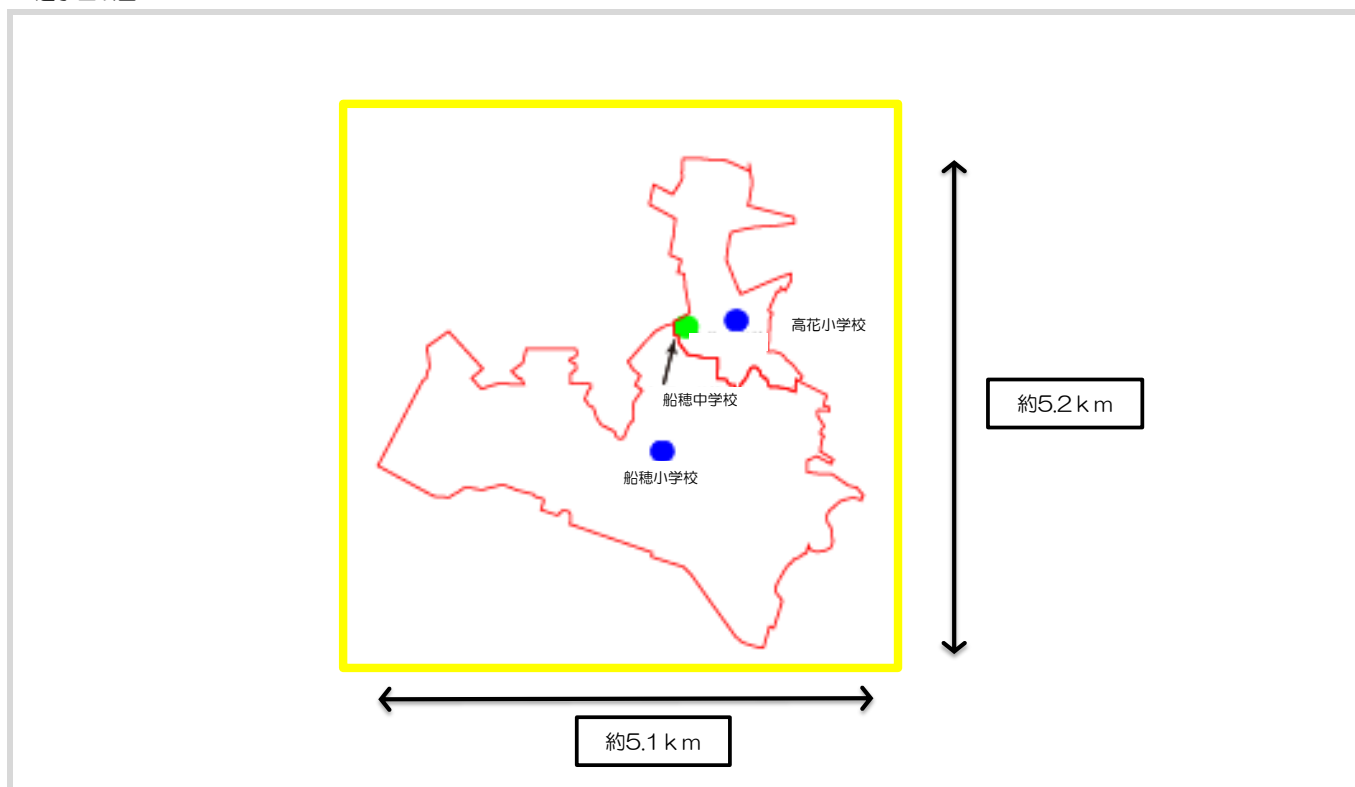
<小中学校分布図（航空写真）>



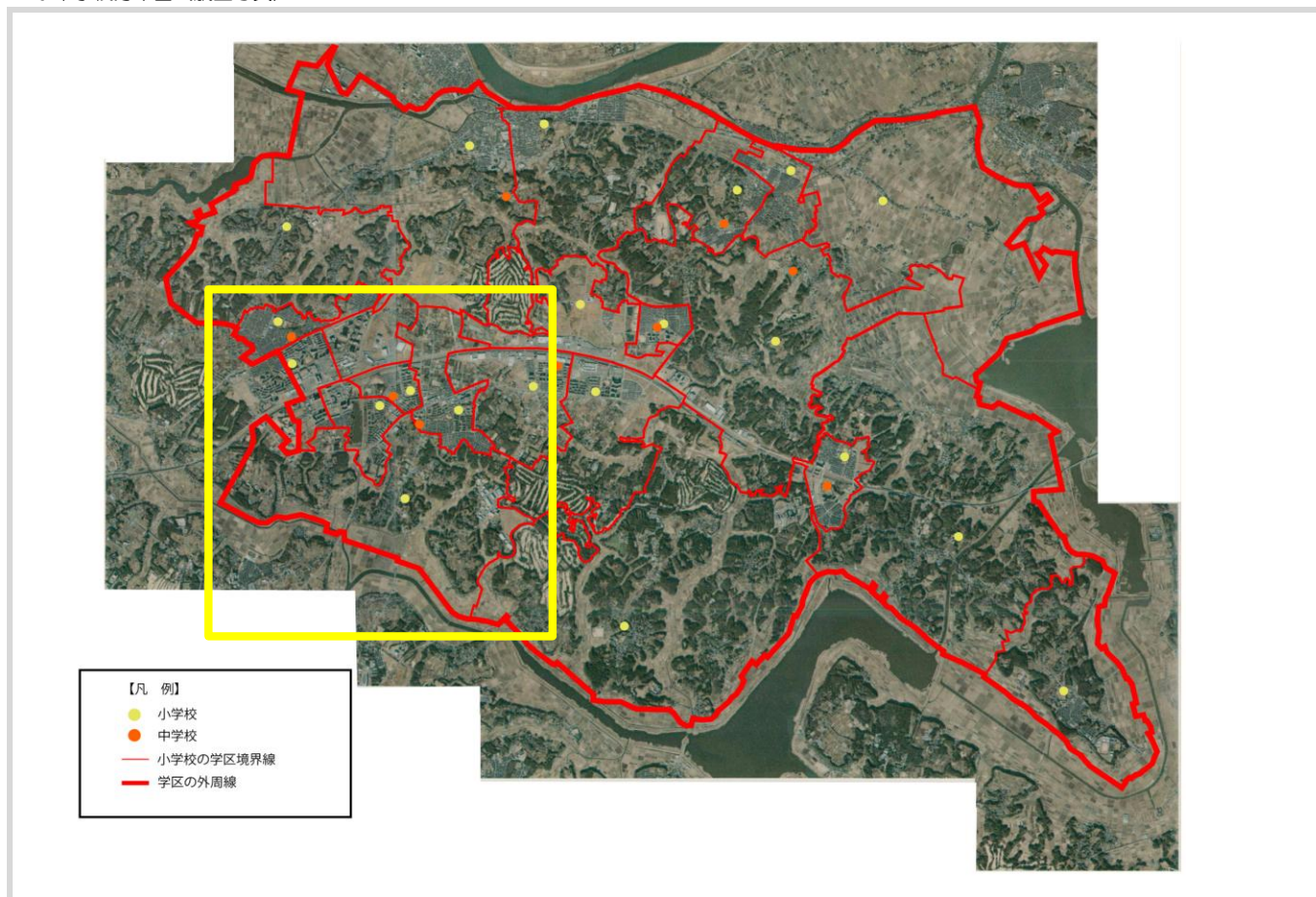
学校適正配置のシミュレーション（案）【船穂小＋高花小】



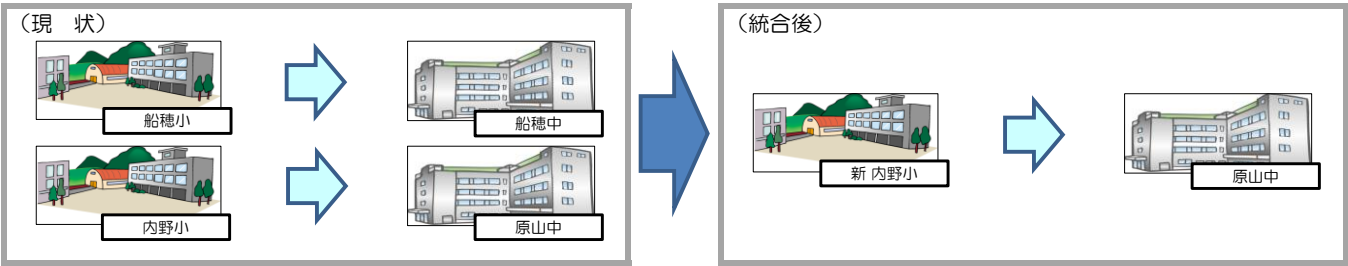
<通学区域図>



<小中学校分布図（航空写真）>



学校適正配置のシミュレーション（案）【船穂小＋内野小】



項 目	船穂小学校	内野小学校	新 内野小学校
① 所 在	印西市船尾1292	印西市内野1-1	印西市内野1-1
② 開 校 年	明治6年	昭和59年	昭和59年
③ 教室保有数等	総数 7 教室（H27：特支 2教室）	総数 26教室（H27：特支 2教室）	総数 26教室（H27：特支 2教室）
④ 児童数の推移	H27：51名 → H33：50名 1名の減	H27：344名 → H33：335名 9名の減	H27：395名 → H33：385名 10名の減
⑤ 学級数の推移	H27：5学級 → H33：5学級 増減なし	H27：12学級 → H33：12学級 増減なし	H27：13学級 → H33：13学級 増減なし
⑥ 通学区域	東西：約5.1km・南北：約3.1km 遠距離地域：直線 約2.3km・道路 約3.0km	東西：約1.4km・南北：約1.7km 遠距離地域：直線 約0.8km・道路 約1.3km	東西：約5.1km・南北：約3.8km 遠距離地域：直線 約3.5km・道路 約4.3km
⑦ 教育目標	次代を担う心豊かでたくましく生きる 児童の育成	自ら学び、豊かな心と たくましく生きる力を備えた子どもの育成	自ら学び、豊かな心と たくましく生きる力を備えた子どもの育成
⑧ 学区外就学の 状況（出）	H27：対象者13人/学区の児童数64人 割合：20.3% 主な就学先 高花小学校		
⑨ 学校等の特徴	・本校は市の西南部に位置し、南部は八千代 市に隣接している。 ・自然環境がたくさん残っていて、子どもの 成長に大いに役立っている。 ・ほとんどの家庭が稲作中心の専業農家を営 んできたが、都市化とともに花卉栽培や野菜 栽培を営む兼業農家へ変遷してきた。 ・学校の前を通る県道印西・竜ヶ崎線は車の 往来が激しく、徒歩通学が主であるため、地 域をあげて安全教育に取り組んでいる。 ・児童昇降口には、大正6年から昭和60年 までの歴代卒業生の集合写真を掲示してい る。また、職員玄関や資料室には、昔のオル ガンや電話機などの他、田下駄や脱穀機など の農機具を展示している。	・昭和59年の千葉ニュータウン中央エリア の街開きと同時に内野地区の第一期の入居が 始まり本校が開校した。 ・開校後10年間は、内野地区への入居が進 み児童数も増加したが、平成5年を境に児童 数の減少が続いた。今後は、戸神台地区のマ ンション等の建設により、再び児童数の増加 が見込まれている。 ・学区は、1km以内に入る範囲にあり、その ほとんどが宅地である。 ・本校の北側には原山中学校が、また、北東 には原山小学校があり、狭い地域に小中学校 3校が存在している。 ・平成12年4月には学区内に「県立北総花 の丘公園」が開園され、県民の憩いの場にな っている。	

＜児童数・学級数の推移＞

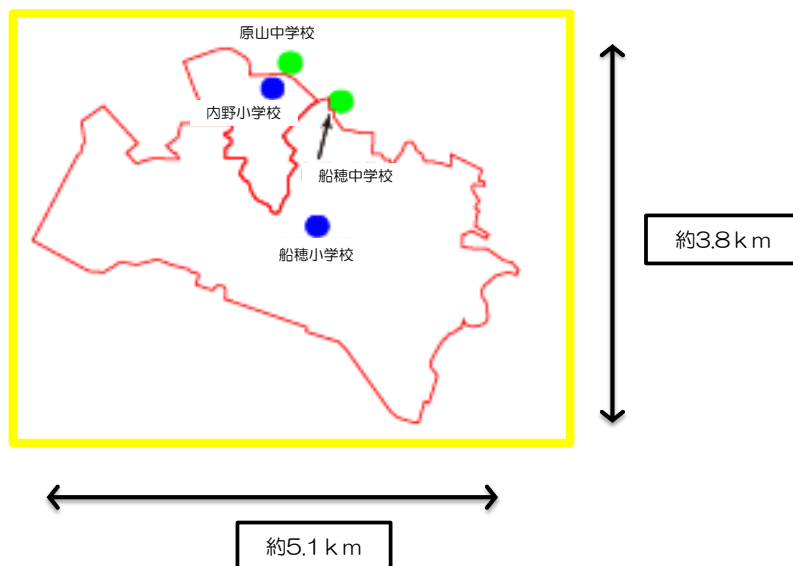
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
船穂小学校	51	5	52	6	51	6	60	6	61	6	55	6	50	5
内野小学校	344	12	346	12	342	12	352	12	345	12	334	12	335	12
新内野小学校	395	13	398	13	393	13	412	14	406	14	389	13	385	13

＜学校適正配置シミュレーション（案）の考察＞

学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学 （道路）	特記事項
船穂小＋内野小⇒新内野小	適正	○	△	・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 ・船穂小の中学校区が船穂中から原山中に変更となる。 ・船穂中学校区が高花小1校となるため、小学校時代に培われた人間関係が維持されやすくなる。

※ 施設受入面：○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数＋H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数＋H27特別支援教室数
※ 遠距離通学（道路）：○…通学距離が4.0km以下 △通学距離が4.1km以上

<通学区図>



<小中学校分布図（航空写真）>

